

# おしえて『文化財』 正法寺の鐘楼と銅鐘

仁王門をくぐって石段を登りきったすぐ右手に鐘楼が建っています。市内ではほぼ見なくなった草葺きの屋根の建物です。棟札によると、元禄15(1702)年、野本村の大臣山田茂兵衛の寄進で、葛袋村の小鷹次良兵衛、金谷村



埼玉県指定文化財「正法寺銅鐘」

の原久兵衛という大工によって再建されたということです。銅鐘は鎌倉時代に作られたもので、形や構造の特色から、鎌倉幕府の開府に伴い畿内から進出



東松山市指定文化財「正法寺の鐘楼」

してきた鋳物師集団の一つである物部氏の作品とされており、県内でも古い梵鐘の一つです。元亨2(1322)年、藤原氏女によって寄進されたことが銘文から分かりますが、全体的にひっかき傷が多く、多くの部分が判読できません。言い伝えによると、この傷は天正18(1590)年の豊臣秀吉の小田原征伐の時、松山城の軍勢を励ますために岩殿山中を引きずりまわした際にできた傷だということです。

問 埋蔵文化財センター  
TEL 27-103333 FAX 27-103334

## えんじょい スポーツ

### ウォーキング



阿部覚さん

コロナ禍でも気軽にできるスポーツのひとつであるウォーキングについて、東松山歩こう会会長の阿部覚さんにお話を伺いました。

阿部さんが、ウォーキングをはじめたきっかけは、約35年前の40代前半だったころ、奥様と買い物に出掛けて歩いたとき、道端に咲く花や、頬をなでる風で季節を感じたことにとっても感動し、それ以来、ウォーキングを続けているそうです。ウォーキングの大きな魅力は、ウォーキング中に花などを撮影したり、一緒に歩く人との会話を楽しむことができること。また、ウォーキングに関する会に参加することで、色々な人と出会い、交流できることだと語ってくれました。

阿部さんは「第6次21世紀の朝鮮通信使 ソウル-東京 友情ウォーク」という、江戸時代に大韓民国ソウル

(漢陽)と東京(江戸)を12回も往来した、外交使節団「朝鮮通信使」がたどった道を巡るイベントに参加し、現地の人と交流したことは、とても楽しかった思い出になっているとのこと。

普段から歩いている阿部さんでしたが、2年半前に高血圧で倒れたことがありましたが、医師からは「普段からウォーキングをしていたから、軽い症状ですみましたね」と言われ、ウォーキングに救われたと感じたそうです。

その後は、食事に注意し、ウォーキングを毎日したことで、今では血圧も安定しているとのこと。

今後の目標は、再び「朝鮮通信使友情ウォーク」に参加したいと力強く語ってくれました。

今後もウォーキングを楽しんでください。応援しています。



| 人口と世帯(3月1日現在)  |        |
|----------------|--------|
| 人口: 90,409人    | (+ 2)  |
| 男: 45,546人     | (+ 28) |
| 女: 44,863人     | (- 26) |
| 出生(2月中): 38人   | (- 9)  |
| 死亡(2月中): 78人   | (- 10) |
| 転入等(2月中): 353人 | (+ 77) |
| 転出等(2月中): 311人 | (+ 27) |
| 世帯数: 41,167世帯  | (+ 37) |

\* ( )は前月比

| 交通事故発生件数(2月中)              |  |
|----------------------------|--|
| 発生件数: 306件*                |  |
| 人身事故: 17件(死者: 0人、けが人: 21人) |  |
| 物損事故: 289件                 |  |

\*東松山警察署管内(東松山市・滑川町・川島町・吉見町)の件数

| 火災と救急件数(2月中)                        |  |
|-------------------------------------|--|
| 火災件数: 4件                            |  |
| 救急件数: 313件(交通: 23、急病: 183、その他: 107) |  |
| 搬送人員: 240人                          |  |

| 市内の空間放射線量測定結果              |  |
|----------------------------|--|
| 市内34か所で空間放射線量を定期的に測定しています。 |  |
| 3月の測定においても、基準値を下回っています。    |  |
| 測定結果の詳細については、市HPに掲載しています。  |  |
| 環境政策課 ☎63-5006 ☎23-7700    |  |

## 梶田先生と振り返る思い出の一コマ Vol.1

1954(昭和29)年7月1日、1町4村(松山町、大岡村、唐子村、高坂村、野本村)が合併し、東松山市が誕生しました。埼玉県下で12番目の市となり、住民は大変よろこびました。10月15日から3日間にわたって行われた祝賀行事では、餅つきとチンドン屋隊を乗せた花自動車が市内を巡回し、各町内9か所に設置された屋台舞台で、はやし、かぐら、曲芸などがにぎやかに繰り広げられました。

3日間毎朝6時30分に花火があがったよ



お祭り騒ぎだったんだね

### キャラクター紹介

市内の小・中学生に配布された学習漫画「漫画でわかる 梶田隆章先生とニュートリノ」のキャラクターたちです。

ニュートリノ三兄弟



電ちゃん ミューやん タウっち

梨花(姉)



歩(弟)



梶田隆章先生



東松山市生まれ。東京大学宇宙線研究所所長・教授。1998年にニュートリノ振動の発見を発表。2015年にノーベル物理学賞を受賞。

## 東松山市誕生

1954(昭和29)年



埼玉県子ども動物自然公園  
**動物ZOO鑑**  
～園長おすすめ ママルネコ～

**みなさんの思いが形になった!**  
3月、新しい展示「ママルロック」がオープンしました。ママルネコの屋外放飼場です。野生ではモンゴル等の高地に暮らすため寒い冬には強いのですが、これまで冬の屋外展示施設がありませんでした。そこで「アニマル基金※」で新たな屋外施設の建設費用の募集を呼びかけたところ、たくさんの方からご支援いただき建設が決まりました。しかし新型コロナウイルス感染症が広まり、設計や業者さんとの打ち合わせなどが進まず、延期に次ぐ延期となり1年以上遅れての完成となってしまいました。

ママルロックは、展示場の真ん中に作った大きな擬岩が名前の由来です。野生では岩の近くに寝み、岩やしげみなどに体を隠して目だけ光らせて獲物を捕らえます。その姿を垣間見ることが出来たら、とスタッフみんなで擬岩を作製しました。2月中旬に完成し、その後2週間以上かけて新しい放飼場にママルネコを慣らしていきました。放飼場にできるのは若いオスの「ロータス」。どちらかという動じないタイプのはずですが、練習初日はなかなか展示場に出てくれませんでした。ふと見ると展示場とは違う方向をみえています。その方向とは、高齢メス「タビー」の部屋。タビーはロータスのおばあちゃん。これまで出会うことのなかった2頭が、放飼場への新しい通路からお互いの姿が見えてしまったのです。心苦しかったのですがタビーの部屋の窓をカバーで覆いました。するとロータスはしょうがないか、と放飼場にでてくれるようになり、2日目にはさらに行動範囲が広がり岩の上まで上がってくれました。その姿は野生のママルネコのように凛々しく見え、ちょっと感動しました。

今度は、早くお嫁さんを見つけなくてはいいですね!  
※アニマル基金…動物たちのより幸せな暮らしのための展示場のリニューアルや建設を目的とした基金

大きな岩が特徴のママルロック

初日 やっと一歩踏み出した瞬間!

2日目 ロックの上までいった!カッコイイ!

